

第14期 第4回 鳥取市校区審議会 議事録

1 日 時 令和元年5月8日(水) 14時00分 ～ 16時30分

2 会 場 鳥取市役所 第2庁舎5階 第1会議室

3 出席者 【委員】

本名俊正委員(会長)、谷口英昭委員、音田正顕委員、上田光徳委員、吉澤春樹委員
山田康子委員、福山敬委員、牛尾柳一郎委員、森本早由里委員、民家幸世委員

【教育委員会(事務局)】

中村隆弘次長、竹田潤主幹兼指導主事、大坪宗臣主任

4 会議次第

- 1 開 会
- 2 委 嘱
- 3 新委員自己紹介
- 4 会長あいさつ
- 5 議事録署名委員の選任
- 6 報 告
 - (1) 第3回校区審議会審議概要について
 - (2) 校区審議に関連する活動報告について
 - (3) 江山地区義務教育学校の設置について
- 7 議 事
 - (1) 千代川以西エリアの学校のあり方について
 - (2) 本市の中長期的な校区のあり方について
 - (3) その他
- 8 その他
- 9 閉 会

5 議事の概要

事務局

ただいまより、第4回鳥取市校区審議会を開会させていただきます。なお、本日は、南部副会長、川口委員よりご欠席の連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

また、4月の人事異動により事務局職員の異動がありましたので、委員の皆様には職員の紹介をいたします。

事務局

[自己紹介]

事務局

日程2の委嘱ですが、4月の人事異動に伴い、本日付で2名の委員を、第14期鳥取市校区審議会委員として委嘱させていただきます。

なお、委嘱状につきましては封筒の中に入れていただいております。1人ずつの交付は省略しますのでご了承ください。

ここで新委員様に自己紹介をお願いしたいと思います。

委員

[自己紹介]

事務局

ありがとうございました。前回の第3回校区審議会では、千代川以西エリアについて地域の意向の把握方法、本市の中長期的な校区のあり方のイメージについてご審議いただきました。

千代川以西エリアについては、地域の意向の把握方法について議論する前に、校区審議会として考えられる校区再編いくつかの方法を検討してから議論すべきということがありましたので、今回はその点についてご審議をお願いしたいと思います。

また、本市の中長期的なあり方については、概ね20年後を見通した、適正な学級数・通学時間・距離といった適正配置の基本的な考え方や、答申の概要について、会長の方で原案を作成していただいておりますので、これをもとにご審議をいただければと思います。

それでは、会長よりご挨拶をいただき、以降の会の進行をお願いします。

会長

みなさん、こんにちは。令和という新しい年号になり、時代が変わっていくという感じがしています。色々なことがこれから変わっていくだろうと思います。人口減少がこれからますます深刻になってくると思います。鳥取県としても2040年に約44万人になるという推計も出ており、これに伴い児童生徒数もますます減少してくることが予想され、ますます厳しい状況になることが予想されます。そのような中で、魅力ある学校をつくっていくにはどうしたらいいのかということについて、新しい委員さんにも加わっていただきましたので、活発な議論をしていければと思います。

その他、日本全体が、例えば経済をとってみても、いいものを作って輸出するというだけでなく、外国においても高品質のものを製造されるようになってきていますので、日本のものをなかなか売りにくいということも出てきています。その中で、ものを作るということはやはり大事ですし、それ以外にもサービスということも必要です。そのサービスというのは、ものの考え方とか、使い方とかが当てはまると思いますが、そのようなところに産業の中身が移っていくのではないかと考えています。そういう時代に、子どもたちをどのように育てていくのかということがあります。取組の一つとして、国の方でも教科担任制を積極的に検討されているようです。教科担任制を進めていくには、ある程度の規模の学校でないとなかなか実施しにくいということや、教員免許にしても小学校と中学校の両方を取得する必要もあります。また、児童数の減少と地域からの要望ということで、義務教育学校がこれからもっと増えてくることが予想されますが、これからの子どもたちの育て方を考えていく中で、一つの新しい手法であるかと思っています。これから小学校では、英語やプログラミングが入ってきますので、場合によっては中学校の教員が担うことも出てくると思います。そのように、これからの学校のあり方はかなり変わってくると思います。

全般の話にはなりますが、働き方も変わってくると思います。パートや任期制などの方が4割くらいと増えている傾向にあります。終身雇用ということが少なくなってきている時代になってきており、やはり子どもたちに力をつけるということが大事になってきています。もう一つ、また女子大学生数も男子大学生とほぼ同等になってきています。こういった女性の方の力を社会の中で生かしていただくということが、もっともっと進んでいき、世の中が形作られていくのではないかと考えています。そのように世の中が変動する中で、校区審議会の役割も非常に重要になってくるのではないかと考えています。皆さんの忌憚のないご意見を伺いながら、これからの鳥取市の新しい学校のあり

方を検討できればと考えています。

本日の議題として、千代川以西エリアの学校のあり方、20年後を見通した中長期的な校区のあり方の2つがあります。千代川以西エリアについては、これまでご意見をいただいた意見を踏まえて、考えられる方策を整理してみました。この他にも考え方はあるかもしれませんが、皆さんのご意見を伺いながら進めていきたいと思っております。本日結論を出すわけではありません。わかりやすく、将来を見通した方向性をもう少し時間をかけながら結論を出していきたいと思っております。もう一つは、年後を目指したところで、鳥取市の学校配置の基準や基本的な考え方をご議論いただきたいと思っております。

色々、世の中が変わっていく過渡期ですので、そういったことを踏まえての皆さんのご意見が重要にまいりますので、よろしくお願ひします。

議事録署名委員を選出したいと思っております。名簿順により、福山委員、牛尾委員、よろしくお願ひします。

では、報告事項に入ります。(1)～(3)まで、まとめて事務局より説明をお願いします。

事務局

[資料説明]

会長

それでは、ただいま3つの事項についてご報告いただきました。

第3回校区審議会審議概要について、いかがでしょうか。

それでは、次の校区審議に関連する活動報告についてはいかがでしょうか。気高や河原の報告がございました。いずれの地域でも、議論は続いているようです。これから少しずつ進んでいくと思っております。河原については、これまであまり審議に上ってこなかったのですが、実際にはいくつかの小学校が小規模化しており、今後、鳥取市全体の位置づけの中でも考えていくことになるかと思っております。

最後に、江山については、いかがでしょうか。〇〇委員の方で付け加え等がありますか。

委員

準備委員会の方では、昨年度に神戸・美穂・大和の3地区において進捗報告会を行ったのですが、学校名も決まり、開校まで1年を切るということで、地域へ報告をし、併せて要望や意見交換をしようということで、6月末くらいを目途に開催する準備をしています。今年の夏以降に仮設校舎の建設が始まる予定ですし、来年の4月にはその仮設校舎で新しい学校がスタートすることになります。そのようなことで待たなしの状況ですので、地域や保護者のたくさんの要望があってそれをすべて実現できるわけではないと思っておりますが、そのところはそれぞれの学校のPTAから出ている委員が、地域と教育委員会の緩衝材になったり、接着剤になったりという役で調整を図っていかうということで進めています。子どもや地域が夢を持てるような学校をつくらうということで、気高や河原でも地域で議論が進んでいるようですが、そういったところのモデルになるような学校を進めていかうという共通認識のもと準備を進めています。

会長

建物は、中学生が学習する部分だけ増築ということではなく、全面的に変わるということですね。

委員

今、小学生が使用している校舎は柱だけ残して全面的に改修して、さらに新しく増築するということで2年かけて整備していくという方向性は出ていますが、具体的な間取り等はこれから検討されることとなります。学校の教室だけでなく、地域との関わりという面では、地域の方も集まれるような場所も

必要だというような議論も出ています。具体的には、学校の図書館を地域の方も利用できる図書館にすれば、地域と学校の交流ができるのではないかと、色々な意見をいただいています。

会長

それはなかなかいいアイデアだと思います。地域の方も学校に集えるというのはとても魅力があります。

報告事項について、他にご質問等はありませんか。

それでは、「議事1 千代川以西エリアの学校のあり方について」に入ります。今回は、これまでの議論を踏まえて、いくつかの考え得る方法を事前に整理いたしましたので、これをもとに議論していきたいと思います。

それでは最初に、事務局より資料の説明をしていただきたいと思います。

事務局

[資料説明]

会長

いくつかの案について説明いただきましたが、これら以外にもあるかと思っています。あるいは、この中から組み合わせていくということもあり得るかと思っています。暫定的な経過措置を設けるとありますが、これは何年か選択できるとか、兄弟が在籍する期間まで現在の学校に通学できるとかといったことが考えられるかと思っています。一番心配なのは、長い橋を渡って子どもたちが通学することです。風が強くと吹いたり、雨が降ったりするたびに、学校の先生方が橋のもとに立つなど子どもの安全配慮を常にしなければならないといった状況が続いていますが、その通学の危険をなるべく減らしたいという思いが以前からあるわけです。

まず、これらの案にご質問等がございましたらお伺いしていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、これらの案について、皆さんより順番にお伺いしたいと思います。〇〇委員さんから、お願いします。

委員

そもそもこの地域の校区を見直すということで問題として出てきたのは、子どもたちの安全性ということ、児童数増加に伴う教室不足ということの2点であったかと思っています。安全性というのが言われる中で、以西の区域の一部だけを校区変更するという案がいくつかありますが、安全性が解消される子どもと、そうでない子どもが出てくることに少し引っ掛かりを感じています。保護者さんの考え方は色々あるかと思いますが、校区審議会としては一番どこを大事にするかということだと思います。それをするために、このように校区割りを考えたというようなことでないと、後々禍根を残しそうだという気がしました。どういった案、方法がいいのかということはまだまとまっていません。

会長

安全という、一番心配な部分だと思います。安全面を考えると、子どもたちが橋を渡らなくなる方法の方が説明しやすいですし、理屈としてもお取り扱いしやすいのではないかと思います。ただ、地域のことを考えると時間がかかってくると思うのですが、いずれにしても安全であるということは非常に大事だと思います。

委員

これまでの議論を一覧に整理していただいて、考えやすく自分の中でも整理しやすくなってきました。こうして見ると、安全性を考慮してすっきり分けた方がいいのではないかと思います。

委員

この地域を審議するにあたり、橋の様子も見ましたが、入学して間もない小学校1年生の子どもが橋

を渡って通学することを考えたとき、安全面ということが校区審議会としての一番の課題であったと思います。暫定的な経過措置を取りながらも、安全面を最優先に考えていくべきではないかと思います。案の中には、新設校ということも入っているのですが、今後の児童生徒数の予測を考えると少し難しいと思います。

委員

それぞれの具体的な案を見て、イメージしながら考えているところですが、学校の築年数のことも踏まえて、今後改修をするタイミングなども踏まえて、安全面や児童数のことも考えていかなければいけないと思いました。例えば、安全面といったときに、八千代橋がポイントして出てくるのですが、例えば以西を校区再編した際に、その時の通学路としての安全面はどうなのだろうかと思いました。

委員

具体的な案を非常にわかりやすくまとめていただき、ありがとうございます。いずれの案にしてもどれぐらいのタイムスパンで、どのように着地していくかということが、やはり重要だと思いました。細かく考えれば、兄弟が別の学校に行く可能性があるなど、かなり色々なことがあると思います。また、個人的に、ぱっと見た感じで、うまく着地できるのではないかという案もございました。

少し余分なことかもしれませんが、教職員の方も校区審議会委員に入っていらっしゃるので、お伺いしてみたいことがあります。私の知人等で城北小学校に勤務していた方にお話を聞いてみたりするのですが、実際に過去10年間くらいに城北小学校あるいは北中学校にお勤めになられていた方の簡単な無記名のアンケートなりで意見をまとめると、率直な考え方が見えてくるのではないかと思いました。なかなか現職の城北小学校の教職員方は、現在の通学の安全確保含めて城北小学校教職員としての仕事でするので、おそらく率直に言いにくい部分もあるのではないかと思ったところです。

会長

今まで学校の先生方のお考えがどうなのかということ考えたことがなかったのですが、確かに今お勤めの先生方は言いにくい部分もあるのではないかと思います。現状を受け入れて、子どもの安全のために橋のたもとに立ったり渡るのを手伝ったりするしか方法がないわけですが、もし橋を渡る必要がなくなれば、授業の準備に集中できるということもあるかもしれません。そのあたりは、また考えていけないといけないかもしれません。

委員

前回の審議会で、橋を渡ることはそんなに危なくないといった意見があった時のことも話題に出しました。

会長

今まで事故がないので問題がないという意見もないことはないのですが、事故が起こるか起こらないかはわかりません。大人としては、子どもの危険はなるべく避けるという方向で考えないといけないと思います。仮に、橋を渡らなくなった場合においても、通学路が安全かどうかの確認は必要だと思います。

委員

八千代橋が危険だろうということは、想像がつかます。突風が吹いたり、雨や雪が降ったりする中で自動車が頻繁に通る幹線ルートでありますので、何かが起こってもおかしくないという危険があると思います。おそらく今までも学校の先生方が安全に渡り終えるようにというような配慮があったのではないかと思います。案の中には大まかに、千代川以西のエリアを全部校区変更するという、一部を変更するという、自由に選択できるようにすることというようなことで整理されていますが、どういうまとめ方がいいのかということは難しいところです。

線路を越えることについては問題がないわけですか。

会長

線路の下をくぐる道路はありますが、踏切を渡るということはありません。雨の日だったと思います。第13期の校区審議会でも、八千代橋を含め、近隣の学校や通学路の様子を見たことがあります。また、小学校を新設してはどうかという意見もありましたので、空地を見たりもしたのですが、なかなか十分な空地がありませんでした。昔、千代水小学校が商栄町にありましたが、色々な事情で廃校になり、城北小学校に通学するようになりました。千代川以西の北の方から小学校がなくなって、南の方に世紀小と大正小が比較的近い位置に立地しています。そういったことから、地理的にも少し難しい配置になっています。ご意見としては、小学校が一つあればということもあるのですが、人数のことを考えますと、千代川以西の城北小学校区だけでは小さな小学校となってしまいます。子どもたちの教育を考えるとできれば2クラス以上あることが望ましいのですが、なかなかそれも将来的には難しいというふうに数字からは窺えます。

委員

もう一つ、よろしいでしょうか。高草中校区はとても広く、安蔵の谷、東郷の谷、湖南学園との境目の高住・良田などまで、かなり距離があります。そういった遠くから高草中校区に通っている場合がある一方で、城北小校区の千代川以西エリアは比較的近くにあるということが、課題を難しくしているのではないかと思います。適正な位置に中学校ができれば、もっと違う発想も出てくるのではないかと思います。湖東中と北中の間の線路の北側に一つあり、南側にも一つあるということになればすっきりするような気もしますが、場所がないという課題があります。ただ、高草中校区がさらに広がるというのはどうなのだろうかと思います。

委員

城北小校区の千代川以西エリアを考える時の目的は何かというと、安全が一つと、児童数の増加等による適正な学校規模という点で課題があるということだと思います。何人かの委員さんがそのことをおっしゃりましたが、そのようなことを念頭に置いて対応していくことが重要だと思います。そこを解決するためにはどの案が一番いいのかという方向で絞っていく必要があります。その中で、この案についてはこのような課題がある、その課題にはどういった対応をしていこうかという進め方になるのではないかと思います。

また、個人的に城北小学校の児童は八千代橋を渡っていくのは大変だろうという率直な気持ちを持っています。天気の良い日は問題ないのですが、学校の教職員にとっては風雨の強い日や台風が近づいてきた時にはとても心配です。当然、安全確保のために教職員が対応するわけですが、根本的にそういった課題を解決したいという思いはあると思います。そういったことを考えると、校区変更した方がいいのではないかと考えたのですが、過去の歴史的背景を踏まえるとなかなか難しいということも理解しています。ただ、20年後を考えるとというのは少し長すぎる気がしており、もう少し短い10年くらいのスパンで方向を示した方がいいのではないかと思います。その間に、暫定措置を設けながら完全に移行していくという流れにしてはどうかと思います。

例えば、千代川以西エリアを現在の学校配置のまま校区再編を考えたとき、世紀小に移す形になると思うのですが、児童数がかなり増えることとなります。そうすると、この審議会が議論する適正な配置については逆にマイナスになってしまうということが起こるので、そこをどう考えるのかということが出てきます。世紀小や高草中の校区の見直しということもしていかないと説得力のある説明はできないのではないかと思います。

委員

課題となっている安全面ということでも、八千代橋を渡らないという方向でもっていきたいと考えています。そうした場合に、地域の方の合意をどれだけ得られるかということ、新しい学校をつくるという選択肢が一番理想的ではないかと思います。地域の方とも話をすることがあるのですが、考え方の一つとして小学校は世紀小に、中学校は北中ということも考えられるのではないかと伺ったところ、それはないのではないかと反応を示されました。やはり、小学校と中学校の一つのつながりを持た

せるべきだという認識が強いのだらうと思われま。理想としては、新しい小学校なり、中学校なりを新設するのがいいと思うのですが、規模的に考えると千代水だけでは難しいと思います。ただ、世紀小に校区変更すると世紀小は大規模校になってしまいます。一方では、高草中校区には、明治、東郷、大正といった小規模校があるわけで、将来的には世紀小に統合するというような話も出てくるかもしれません。そういったことを踏まえると、今ある小規模校を統合しながら新たな小学校なりをつくるという選択肢が理想ではないかと思ひます。

地域の方の解決案としての一つの意見なのですが、新しい学校をつくると言ってもなかなかできないので、城北小と北中の分校として小規模の学校をつくってもらおうという方法はないかということがありました。低学年は橋を渡らないという安全確保をして、何かの学習の機会では交流するようなことはできないかというような意見が出ていました。

これらは千代川以西に新しい学校をつくることを前提にした考え方ですが、分校として千代水地区につくるというパターンと、千代川以西のさらに広いエリアで統廃合をして校区を再編するという、いずれかが理想ではないかと思ひました。

歴史的背景についてですが、千代水地区というのはもっと範囲が広く、城北小学校の前までありました。秋里が千代水地区でした。以前の千代水地区とすれば、目の前に城北小学校があるので通学できるのではないかという意識があったと思ひます。その後、千代水地区が縮小していき、秋里や千代川以西の南城北も公民館区を城北に変えられたりして今日に至ります。必ずしも、地区と小学校区が一致しないといけないということはないのですが、一体となって何かをするというときには難しいと感じています。できれば、一致していた方が望ましいと思ひます。

委員

橋を渡ることには危険性があるという課題と、地域や保護者の方に色々な意見があるということ踏まえて整理された案を見ると、よく理解できました。現在の校区をどこか線を引いて決めていくということであれば、千代川を境に分けるということは一つの案であり、基本なのではないかと思ひました。児童数を見てもこれから5年の間に千代川以西の児童の数は増加する見込みとなっています。その先はわかりませんが、新しく団地が造成されたりマンションが建ったりするとさらに増えますので、単純に世紀小や高草中に校区を変えるということでは対応できないのではないかと思ひます。したがって、世紀小、大正小、高草中なども含めた新たな校区の再編を視野に議論をしないと解決できないのではないかという気持ちを持ちました。

会長

ありがとうございます。皆さんのご意見を伺いました。もう少し議論が必要だと思ひますし、議論の際に必要となるもう少し詳しい資料等を見ながら検討できればと思ひます。先ほど、高草中校区の安蔵のあたりの話も出ましたが、もう少し広いエリアの地図も確認しながら考えていけたらと思ひます。今は、八千代橋を渡るかどうかということだけに焦点が当たっているのですが、全体的にいずれ再配置を考えていかないとはいけません。中心市街地のあたりも人口が変動することが予測されますので、そういった部分も含めた地図を見ながら検討を進めていきたいと思ひています。今日は結論を出すことはできませんが、世紀小、大正小を含めて校区全体の再編も必要だろうというご意見も今後持ってもらっても結構だと思ひます。そのあたりを含めて新しい学校の可能性があるのかどうかということも加味して、もう少し検討していきたいと思ひます。

いずれにしても、子どもたちを安全に通学させるということは、大人としての責任です。その部分と、子どもたちにとってより良い教育を行っていくということをどのように結び付けていくのかということもあります。仮に世紀小に校区変更すると、1学年が3~4学級規模になってくると思ひます。文部科学省の基準でいくと適正ではありますが、将来を見渡して考えるときにどうなのかということも考えていく必要があります。20年先の児童数を読むことができませんが大規模化が進んでいますので、10年以内に解決できるように進めていけたらと思ひます。

委員

先ほどの私の発言についてですが、補足させてください。安全面の件ですが、交通安全の面だけを考

えれば、城北小学校に通学した方が安全です。土手沿いや八千代橋、城北小学校までの歩道は 2～3m 程度ほぼ整備されているので、集団登校するには安全です。また、幹線道路ということで、自動車が混んでいますのでスピードを出す車はあまりないです。城北小学校では、時々交通事故に遭う場合がありますが、千代川以西から通学する子どもが交通事故に遭うということはあまりないです。逆に、交通事故が発生するのは、住宅が密集している場所あたりが多いようです。千代川以西で言えば商業地があるあたりは車がかかり通ります。保護者の間では、世紀に通学するとなると、そういった商業地の周辺を通ると危険があるので、城北小学校に通学した方が交通安全上、安心だという声も聞きます。また、防犯の面でも、大きな道路を通ることでの人の目もあるので、安全だという認識があります。

委員

一つよろしいでしょうか。地図を見ていて思ったことなのですが、城北小から複数の中学校に通学できるという選択肢があるのであれば、城北小校区を 3 つの中学校区に分けてはどうかと思いました。実は西中が一番近いのに、城北小校区はすべて北中に通学するようになっていきます。例えば、29号線より東は北中に、29号線から千代川までは西中に、千代川以西は高草中ということにすれば、生徒数の面からも中学校の問題は解決できるのではないかと思います。これまでの議論は千代川以西と以東という発想だったと思いますが、校区再編ということでは、痛み分けではないですが、北と西と高草に分けて、併せて将来的には美保や美保南などの大きくなりすぎた小学校区は複数の中学校に分けるという選択肢も適正規模ということを考えればあり得るのではないかと思います。

会長

今までは、一つの小学校からは一つの中学校に通学するという流れで来ていました。したがって、なかなかそういった発想が出てきませんでした。前回、〇〇委員より一つの小学校から複数の中学校に通学することは全国的には普通にあることなので、そうした選択肢もあるのではないかというご提案もございました。先ほどご指摘いただいた、北中と西中の生徒数の偏りのようなことも、校区再編によってある程度解決されていくのではないかと思います。そういったお考えも入れていって、全体的に児童生徒数のバランスの取れた校区のあり方を、通学距離も考慮しながら検討できればと思います。

委員

これから北中はもっと生徒が増えて500人を超えて、西中は300人を切って減少傾向にあることを考えれば、城北小校区の一部を北中から西中にしていけば中学校のバランスが取れるのではないかと思います。ただ、城北小校区だけ校区再編するということが難しいのであれば、同時に他の大規模小学校と大規模中学校で固まっているところをいかに適正に区分けをしていくのかという発想も必要なのではないかと思います。特定の校区だけを議論しているとなかなか理解が得にくいところがありますので、全体的に偏りを正すような検討が必要かもしれません。

会長

12年後の北中の生徒数は西中の倍くらいになりそうです。生徒数の推計は、今後の議論にも重要ですので、事務局の方で、今年度の最新の推計表を次回ご準備いただきたいと思います。

〇〇委員がおっしゃられたように、全体的な偏りをなくして、教育の面でもバランスが取れるようにするということが教育委員会の役目だとも思いますので、そのあたりを次回以降、検討していきたいと思います。

それでは、「議事2 本市の中長期的な校区のあり方について」に入ります。最初に、資料の説明をお願いしたいと思います。

事務局

[資料説明]

会長

国の基準と現在の鳥取市の基準もごさいますが、20年後は児童生徒数の減少を予測すると統廃合等

も含めて新しい基準でエリアごとに学校数がある程度予測していったらどうかということです。参考資料の5ページですが、適正配置の基本的な考え方として、「学校の統合により」という文言がございしますが、人口減少下で基本的には新設というのはなかなか難しいであろうということです。2つ目は、「児童・生徒数予測をもとに、適正規模の学校を配置する」、3つ目が、「通学距離・時間等の通学条件による適正配置を進める」、4つ目が「いくつかのエリアに分け、エリアごとの学校数の目安を児童生徒数予測をもとに算出する」と記載しています。前回、秋田市と栃木市の計画をご覧いただきましたが、あのような形でまとめていければと考えています。20年後のエリアごとの学校数を地図上で示していければと思います。

その時の、適正規模の考え方ですが、現在の鳥取市の基準を見ますと、小学校は6～18学級、学年で1～3学級、国の基準では12～18学級で最低でもクラス替えができる規模となっています。鳥取市としても20年後には、国と同様にクラス替えができるような小学校をつくってはどうかということです。中学校については、現在の鳥取市の基準は6～18学級ですので学年で2～6学級、国の基準は12～18学級なので学年で4～6学級ということで、こちらも国の基準に合わせてはどうかということです。義務教育学校については、現在の鳥取市の基準はなく、国の基準は18～27学級ですので学年で2～3学級ということになります。鳥取市では、義務教育学校については、9～27学級として、学年1学級でもよいという基準にしてはどうかという提案をしています。適正配置については、小学校は4km、通学時間は1時間以内、中学校と義務教育学校は6km、通学時間は1時間以内という国の基準を準用して記載しています。

これらの提案の内容について、委員の皆様よりご意見をお伺いできればと思います。

委員

適正配置についてはここに書かれているとおりでいいと思います。適正規模についてですが、2040年には国と同じ基準にすると、鳥取市には小規模校が多くある中で、そういった小規模の学校を統合に誘導しているように捉えられるのではないかと思います。私自身としては、どうなのかなと思いました。

委員

2040年の基準でいくと、かなりの学校を減らさないといけないのではないかと思います。そうになると、適正配置の基準の通学距離が4km、6kmという範囲に収まらなくなってくるのではないかと思います。あくまでも感覚的な感想ですが、適正規模を国の基準とするのであれば、通学距離の基準を鳥取市独自のものにしていかないと整合が取れなくなるのではないかと思います。

そして一つ質問ですが、小中学校の適正規模のところに教務主任等の配置の関係が書かれていますが、義務教育学校の場合はどうなるのでしょうか。

事務局

把握しておりませんので、次回までに確認をしてお答えさせていただきたいと思います。

委員

お願いします。

義務教育学校をつくるとすると、基本的に小規模校なのですが、もしも複式学級が発生した場合に当てはまらなくなることを考えると、義務教育学校を残すのであれば基準をもう少し緩くした方がいいのではないかと思います。例えば9学級ではなく6学級以上にすることもあり得るのではないかと思います。

委員

先ほど、教務主任等の単独配置の話がありましたが、「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」に定めてある職員数の基準があり、例えば7学級の学校であれば9人、12学級であれば15人と、教職員を配置するというような基準があります。ここに書かれている12学級で、果たして学年主任が単独配置できるのだろうかと感じたところです。いずれにしても、教務主任等が単

独配置できれば学校運営は随分やりやすくなると思います。

そして、子どもの教育の面でも、クラス替えのできる12学級というのは確かに理想です。小規模ですと、子どもの集団適応という面でもなかなか難しい部分が出てきますので、この基準についてはいいのではないかと思います。ただ、12学級とすると当然、学校の統廃合につながっていくことになるだろうと思います。統廃合した場合の一番の課題は、交通手段の確保だと思います。

委員

基本的な考え方については、そのとおりだというふうに感じました。2040年の基準についてですが、鳥取市をいくつかのエリアに分けるといっていますが、具体的にどのような形になるのだろうかと考えてみました。3つの旧郡部をそれぞれエリアとして考えたときに、旧鳥取市の中に学校がいくつあるかという、義務教育学校が湖南と江山、その他に東、西、南、北、湖東、中ノ郷、桜ヶ丘、高草をどういったエリアにして、いくつの学校にするのかということになるのではないかと思います。小学校ですともう少しエリアという形が見えてくるのですが、中学校は旧市を2つくらいに分けて、いくつにするのかという議論になるのかどうなのかと思いました。エリアごとに適正な学校数を設定するというのは少し難しいのではないかと感じたところです。

会長

エリアをどのように分けるかという、鳥取市が定めている将来の都市計画を基本に考えていくことになるのではないかと思います。秋田市や栃木市の計画のように、適正規模に照らしてエリアごとの学校数を検討されている例がありますので、そういったものを参考にしながら検討していければと思います。

委員

書かれているとおり、人口予測に対して学校をどこに配置するのか、どれくらいの規模にするのかといった考え方は正しいと思います。20年先の計画ということ踏まえてのことですが、都市計画であれば立地誘導という考え方で、このエリアに住んでいただく、あるいはサービス関連のものに集まっていただくという方向に動いていかざるを得ず、人口減少が進む中では都市サービスを効率的に行き渡らすという視点で動いていくと思います。このあたりに住んでいただきたいといった都市計画と連動させて、教育施設はここに配置しますといったことも打ち出してもいいのではないかと思います。特に中心市街地あたりについて、子育てや教育の視点からどうしていくのかということ、20年先の計画でするので盛り込んでいってはどうかと思いました。

委員

鳥取市には小規模校がたくさんある中、20年先の計画を考えるとということで、適正規模の考え方としては、国の基準に準じた形の学級数の設定でよいのではないかと思います。

委員

適正配置の基本的な考え方としては、これで良いと思います。適正規模の考え方としては、理想論で行けばクラス替えのできる規模は、子どもの人間関係や教育環境を考えると望ましいわけですが、鳥取市の状況を見る中では柔軟に対応できる形がいいのではないかと思います。通学距離の基準ですが、鳥取市の実情に合わせると、なかなか難しい面もあると思いますが、基本的にはこれでいいのではないかと思います。

委員

国の基準に合わせるということにすると、今ある中学校を半分以上統合していかないといけないことになるかと思います。国の基準に合わせていくというのは理想的だと思いますが、鳥取市に適用してしまうと、人口の少ない鳥取市としての学校の特色などがなくなってしまうのではないかと思います。

委員

おそらく専門的な見地から、この適正規模の基準が出されていると思います。小規模校が義務教育学校という形になっている実態がありますが、どれくらいの規模まで義務教育学校として存続し続けるものなのかお伺いできればと思います。

事務局

お示しいただいている案としては、複式学級が存在しない規模の9学級ということですが、ただ、直ちに9学級を割ったら直ちに統合するかということではなく、各地域の歴史的背景もありますので、地域において子どもたちにとってどういった学校の形が望ましいかというご検討をいただくということになるかと思います。

委員

制約条件がたくさんある中で、どこを落としどころにして素案にしていくのか難しいのだらうと思いました。

会長

確かに難しいところです。2040年の基準案は、現在の基準より高めに設定しているのですが、本当にこれでいいのか心が痛む部分が、皆さんにはおありだと思います。教育の理想としては、クラス替えができる方が、子どもの成長にとって良いということだと思います。ただ、現実には、地域に学校を残した方がいい場合もあります。学校は子どもたちだけでなく、地域としても拠り所ということがあります。地域に学校を置いて、地域と子どもたちが発展していくという形としてあるのが、義務教育学校です。湖南学園のモデルとなった学校が宮崎県にあったのですが、その参考にした学校というのは、小中一貫をやめています。理由はよくわかりませんが、もしかするとさらに小規模化して、別の小学校や中学校に統合して適正規模にされたのかもかもしれません。児童生徒数の増減に合わせて、子どもたちの成長を願って考えざるを得ない場合もあると思います。義務教育学校は、小規模校転入制度を活かしてどんどん魅力のある学校をつくっていかないと、地域の子どもたちだけではなかなか維持するのが難しくなるかもしれません。実際に、湖南学園は20数名の方が制度を利用して他の校区から入ってきています。保護者の方が魅力を感じて、大規模校よりも湖南の特色ある教育を選択するというように一部で評価されていますので、そういった学校を目指す必要があると思います。地域の方の、大きな応援もあってできていることだと思いますし、江山もそれを目指しておられると思います。確かにいつまで義務教育学校を存続できるのかといったことはわかりませんが、あまり少なくなりすぎると考えざるを得ない場合が来るかもしれません。ただ、今はいい条件がそろっていますので、皆さんが一生懸命に魅力ある学校をつくっておられるところだと思います。

皆さんにご意見をお伺いしたところ、適正規模の考え方としては、国の基準に合わせることもいいのですが、鳥取市独自の今の基準に近い方が合うのではないかというご意見もありましたので、このあたりを考慮しながら今後の計画の中でまとめていきたいと思っています。鳥取市として子どもを小規模でも育てられるような教育内容を持っていれば、それはそれで成果が上がると思います。そのあたりを含めて、基準の数字をどうするかということはこれから議論をしてまとめていきたいと思っています。

本日は、2つの議題でご議論いただきました。千代川以西エリアについては、全体的な校区のあり方の中で考えていくことも必要ではないかというご意見もございましたので、そのあたりを含めて次回以降の審議をお願いしたいと思います。

次回の日程調整をさせていただきたいと思います。

それでは、次回は、6月24日の14時からお願いしたいと思います。

事務局

慎重なご審議、大変ありがとうございました。以上で第4回鳥取市校区審議会を閉会します。

令和 年 月 日

会 長 本 名 俊 正

議事録署名委員

署名委員 福 山 敬

署名委員 牛 尾 柳 一 郎